



≡ 日本の音を求めて ≡

作曲  
集団 **たにしの会**  
**第29回 作品発表会**

2007年**6月10**日(日) 2:00 P.M.  
兵庫県芸術文化センター 小ホール

主催：作曲集団たにしの会・兵庫県音楽活動推進会議  
後援：兵庫県・兵庫県芸術文化協会・関西音楽舞踊会議・神戸音楽家協会

プログラム

早見 公夫 独奏尺八のための 即興曲 尺八 折本岳慶山

三宅 勝 竹と二十絃による小品 ひろっぱ  
 1. ひろっぱのまわりで  
 2. ひろっぱのなかで  
 3. ひろっぱをあとに  
 尺八 児玉 宝謹  
 二十絃 箏 荻野けい子

中西 清一 チェロと箏のための 四つの小品 チェロ 田中 次郎  
 箏 小坂 春榎

大菅 道信 横笛幻想 静寂と炎上 篠笛 児玉 宝謹  
 打楽器 越川 雅之

\* \* \* \* \*

河合 正雄 尺八と打楽器のための 風を續ぐ<sup>つむ</sup>  
 I 漣  
 II 啼梢  
 III 漂  
 尺八 折本岳慶山  
 打楽器 越川 雅之

下村 正彦 篠笛と箏のために 篠笛 児玉 宝謹  
 箏 小坂 春榎

中西 覚 琵琶とチェロのための 絃歌 琵琶 川村 旭芳  
 チェロ 田中 次郎

矢野 正文 尺八(三味線)と二十絃箏のための 津軽山唄 尺八(三味線) 児玉 宝謹  
 二十絃 箏 荻野けい子

独奏尺八のための 即興曲

早見 公夫

尺八に関しては、主に日本尺八連盟を創設された最本本勝山先生に教えていただきました。はじめての邦楽の曲（尺八と箏）を演奏して下さったのも先生ですし、その他先生にはいろいろお世話になりました。そういう訳で先生のことを思いながらこの曲を書きました。

竹と二十絃による小品 ひろっぱ

三宅 勝

私たちの周りは年とともにいろいろな建物が増えつつあり、また街の風景も随分と様変わりしてしまったものです。そのような街なかでも歩いているうちに、道の片隅などに子供の頃の記憶を思い出させる何かを見つけ、しばし回想の念に駆られると言うご経験をお持ちの方も多くおられることでしょう。あちこちの公園では子供たちがグループを組んで遊んでいるのに出会います。遊びの様子は、世代とともに変化してきていますが時折、遊びの歌声を耳にします。その中には私たちに覚えのある歌もあります…。と言った思いを曲にまとめたものがこの作品です。演奏される楽器は尺八と二十絃です。三つの部分に分かれています。「ひろっぱのまわりで」「ひろっぱのなかで」「ひろっぱのあとに」とイメージしてみました。さて、毎回のことながら、この曲も楽譜書きには他の方のお手をお借りしています。また演奏して下さるお二方のお手をも煩わせてしまいました。ご迷惑をお詫びいたしますとともに、ご助力を戴きましたことに深く感謝申し上げます。

チェロと箏のための 四つの小品

中西 清一

私のやっている楽器がギターのせい、箏には親しみを覚えるし好きな楽器である。そして大好きな楽器であるチェロとの組み合わせの曲を作れる機会に恵まれたことは幸せである。

しかし曲を書くとなると難しい。今回は勉強の意味合いも兼ね「4つの小品」とし、緩・急・緩・急の組合せとした。最初の2曲は陰旋法を基本とし、他は陽旋法を基本とした。音を一つ変えるだけで陰陽の変わる日本の音階の面白さが少しでも伝われば幸いである。

横笛幻想 静寂と炎上

大菅 道信

横笛と打楽器による、いにしえの情景です。特に静と動の対比を主眼に作曲しました。

尺八と打楽器のための 風を續ぐ

河合 正雄

中国政府文化部が昨年の夏に女子の民族楽器演奏集団を立ち上げたのを機に、日本公演の計画が持ち上がり、その公演向けの編曲・作曲の依頼が友人からあり、中国の民族楽器の勉強のため年末とこの三月に北京に行ってきました。

その折、若い演奏家たちと交流させて頂いたのですが、その技量の高さ驚嘆の一語に尽きました。継続した中国の歴史が今も生きており新しく華を咲かそうとしている様を目にして…なにをしてきたのか私は…感ずる所大でした。

そんな訳で、日本の楽器の尺八（これも中国から渡来したもの）に挑戦することにしたのでありますが解らないことばかり、結局、演奏家のお力にお頼りすることと相成りました。

無責任のようで申し訳ありませんが、自由に、気楽にお聞き願いたく思います。

篠笛と箏のために

下村 和彦

曲は一楽章ではあるが、一種の変奏曲形式を成している。篠笛に始まる序奏、それに付随するように現れる箏のハーモニー。箏のグリッサンドの後に現れる篠によるテーマと5つの変奏、そして6/8拍子による第6変奏とコーダにより曲は閉じるのである。作品のコンセプトとしては篠竹のもつ自然の素朴な音を保つことを念頭に置き古典的な手法で処理をしました。

琵琶とチェロのための 絃歌

中西 覚

琵琶の川村旭芳さんとは、尼崎市委嘱の管弦楽と混声合唱のための組曲「冥府の武将」を、2003年北欧公演用ということでフルートとピアノと琵琶の編成に書き直した時にはじめてのお出会いし、若手の練達の琵琶奏者と囁目して以来、二度目のおつきあいです。チェロの田中次郎さんは、東京文化会館でのピアノトリオや作品展その他で何度もおつきあいしていただいている方です。さて、和楽器の琵琶と洋楽器のチェロの組み合わせでどんな歌がうたえるのか、崖っぷちに立っているような今の時代状況の中で自分のうたえる歌は、と、なかなかの難行でしたが、何とかできあがりました。そして未知の出遣いのような不安と期待を抱きながら初演を待っているのです。

尺八（三味線）と二十絃箏のための 津軽山唄

矢野 正文

曲は緩やかな序奏を持つロンド形式。主題部は陽旋法で、変拍子の8分の10拍子（3+3+2+2）で書かれ、三味線と二十絃箏が軽妙に掛け合います。中間部は陰旋法で尺八が哀調を帯びた津軽山唄を歌い、二十絃箏は全く別のフレーズを淡々と演奏します。

津軽山唄は津軽（青森県）地方に伝わる民謡で、元来、深山で刈った木を急流に流す時に歌われた仕事唄（労働歌）でありましたが、明治以降、現在では専ら祝い唄として歌われています。

二十絃箏の深みのある暖かい音色と、曲の途中で三味線と尺八を持ち替えて演奏すると言う、邦楽のオールラウンドプレイヤー見玉宝謙氏ならではの演奏をお楽しみ下さい。

# ごあいさつ

作曲集団たにしの会 代表 中西 覚

いつの間にか29回目となりました。1971年に会を結成して以来37年が経ちました。

その間、管弦楽作品集を5回、合唱作品集を1回、歌曲作品集を2回、木管アンサンブル特集を1回などを含め28回、今回は和楽器を取り入れた作品の特集です。和楽器は、それぞれが個性豊かで特色のあるものですが、演奏上の制約も多く、それらにどう対応していくか、勉強会を2度持った上での作品発表会です。どうぞ最後までごゆっくりご鑑賞ください。本日はご来聴どうもありがとうございました。

## 演奏者プロフィール

### 折本 慶太 (岳慶山) (大人樹) (おりもと がくけいざん) (尺八)

1993年尺八を横本岳人山師に師事。1994年、三絃を生田流新絃社二代目家元持谷春樹師に師事。郡山流准師範昇格。1997年パリ日本大使館で開催された親善公演に新絃社合奏団として参加。郡山流尺八大阪府コンクール一位受賞 (以後4年連続)。郡山流師範首席合格。1999年生田流新絃社准師範試験首席合格。2001年NHK邦楽技能者育成会第46期卒業。生田流新絃社師範昇格。現在：尺八・箏・十七絃箏・二十絃箏・三絃を使用し、国内外で多数公演を行う。神戸薬科大学華曲部顧問。



### 児玉 宝 謹 (こだま よしのり) (尺八・篠笛・三味線)

日本民謡幸真会二代目会主・日本民謡指導家。'00より宝塚市教委「みんなの先生」小中高の部登録講師。'01より兵庫県教委「トライやる・ウィーク」登録講師。'04より神戸市教委「ゲストティーチャー」登録講師。'05よりカルチャーサロン大道「日本民謡総合講座」担当講師。'90年春、父である先代幸真(たかのり)の逝去に伴い22歳で二代目を後継。三味線弾き唄いを中心に日本民謡に関する全パートを網羅。親族の民謡環境と自身の洋楽経験とを活かした幸真会運営、地域貢献、後進の指導等に取り組む一方、ジャズやクラシックを始めとした民謡楽器によるコラボレーションや民謡アレンジ等、既成概念を越えた活動も展開。



### 苅野 けい子 (かりの けいこ) (二十絃箏)

幼少の頃より、祖母苅野八重に箏の手ほどきを受ける。1976年中村洋一氏に箏、三絃を師事。80年上京。野坂恵子氏に二十絃箏を師事。81年NHK邦楽技能者育成会26期卒業。91年NHK邦楽オーディション合格。東京都国際平和文化交流基金の助成によりカナダ公演。NHK-FM「邦楽のひととき」に出演。92年前田智子氏に和声学を学ぶ。現在、僕社社大師範、橋本岳人山、野田恒代と共に「はとぼっぴ」主宰。演奏活動を続けながら、神戸親和女子大学、大阪病院華曲部等の指導にあたる。



### 田中 次 郎 (たなか じろう) (チェロ)

兵庫県立長田高校卒業。同大学立芸術大学卒業。同大学大学院音楽研究科修了。NHK洋楽オーディション合格。NHK-FMに出演。カナダヴィクトリア国際音楽祭参加後、ジュリアード音楽院においてハーヴィー・シャビロ教授の薫陶を受ける。現在、神戸市室内合奏団首席チェロ奏者、神戸山手短大及び山手女子高校音楽科非常勤講師。神戸音楽家協会会員。神戸フィルハーモニックコーチ。ソロ、室内楽、オーケストラ客演首席等多岐に渡り活動。



### 小坂 春 穂 (こさか しゅんか) (箏)

幼少より、箏曲、地唄、十七絃を生田流新絃社林田春樹氏に師事。平成4年生田流新絃社師範免許取得。平成5年兵庫県邦楽コンクール第3位。平成5年全国高等学校総合文化祭日本音楽部門出場。平成6年第2回高校生国際芸術コンクール箏部門入選。平成8年より兵庫県立鳴尾高等学校箏曲部講師。平成17年NHKラジオ邦楽のひととき出演。同年、女性5人による邦楽グループ「ことさち☆」結成。大阪にて初コンサート開催。現在、関西を中心に邦楽のみならず、洋楽とも演奏活動を続ける。



### 越 川 雅 之 (こしかわ まさゆき) (打楽器)

京都市立芸術大学音楽学部卒業。京都フィルハーモニー室内合奏団打楽器奏者。[第23回KOBEPフレッシュコンサート][松方ホールホワイエコンサート]をはじめ多数に出演。また、'97年には作曲集団たにしの会演奏会にて大善道信作曲「打楽器のための即興曲」を新作初演。現在、所属の楽団の活動だけでなく、ソロ、アンサンブルなど幅広い分野での活動にも積極的に取り組んでおり、年間公演回数は140を越える。2000年12月、2002年6月リサイタルを開催。日本打楽器協会会員、神戸音楽家協会会員、神戸マリンバソサエティ所属、パーカッションアンサンブルグループ「P.A.N.Klang」メンバー。打楽器を宅間齊、山本毅、マリンバを宮本慶子の各氏に師事。



### 川 村 旭 芳 (かわむら きよくぼう) (筑前琵琶)

8歳より、筑前琵琶日本旭会師範、柴田旭堂に師事。1998年より、現代邦楽合奏団「翔」に所属。現代曲においては薩摩琵琶も演奏し、他の楽団などへの助演も数多い。伝統的な語り芸を継承しつつ、和・洋・民族楽器、朗読、舞踊など他分野との共演にも力を注ぎ、また近年は、新しい琵琶語り曲の創作にも取り組んでいる。2004年7月、CD「川村旭芳 筑前琵琶のしらべ」を発売。若手演奏家で結成された、和楽器ユニット「おとぎ」代表。主な自作曲：小泉八雲「怪談」より「雪女」、『海は人をつなく母の如し-サインパンゼ号漂流譚』など。



## 作曲家プロフィール



### 早見 公夫 (はやみ きみお)

海上保安大学校中退（ここで吹奏楽を学ぶ）。国際音楽専門学校作曲家卒業。  
中学音楽教員を経て、現在（作編曲、ピアノ演奏、合唱指揮）に至る。  
関西音楽舞踊会議会員、日本音楽家ユニオン会員。



### 三宅 勝 (みやけ まさる)

1989年、30余年の公立・私立学校音楽科教員を定年退職後、作曲と小・中・高の学校吹奏楽や地域合唱の指導に従事。教員在職中より、小山清茂氏に師事し、作曲集団「たにしの会」の会員として現在に至る。  
〈主要作品〉歌曲集「夢の中の子供たち」「院庭秘抄より」、合唱団「紙面」「貧窮問答歌」「平和への願い」「三猿の歌」、歌と和楽器による民話「天狗の裁き」、管弦楽のための「舞曲」、数値配列による器楽曲「ピアノ、2台のマリンバ、フルート」。



### 中西 清一 (なかにし せいいち)

1951年京都生まれ。14歳の頃よりギターを始める。20歳の頃日本技法に関心を持つとともに、その頃出会った小泉文夫の「日本伝統音楽の研究」に大いに刺激を受け、実践的に日本技法による「弦楽の為の組曲」を作るも、演奏活動のため作曲は中断。事情により30歳の頃より音楽は完全中断。50歳より作曲を再開（というより始める。）し、52歳よりギターを再開し演奏活動を始める。全作品はホームページ <http://homepage3.nifty.com/jtps/> で聞くことができる。ギター曲から管弦楽曲まで手がける。  
近畿大学法律学科卒、佛教大学英文学科卒。日本ギタリスト会議常任委員（ギター音楽大賞審査員）、関西音楽舞踊会議会員、日本音楽家ユニオン会員。



### 大菅 道信 (おおすが みちのぶ)

鳥取大学・駒澤大学卒業。小山清茂・中西覚の各氏に師事。  
〈主要作品〉吹奏楽の為の「喜遊曲」/マンドリンオーケストラの為の「日本狂詩曲」/六人の奏者の為の「パーカッションアーナ」/交響曲「デカンショ」/萩原朔太郎の詩による二つの歌/尺八のための三章/ヴァイオリンとピアノのための二楽章/尺八・打楽器と弦楽のための詩曲/歌曲「虎」「狼」/女声合唱組曲「タンポポ」/チェロのためのモノローグ/ピアノ・ソナタ/不慮山を望む歌/打楽器のための即興曲/交響詩「富士」/吹奏楽のための「炎の帰還」/歌曲「極楽」「くさむし」。



### 河合 正雄 (かわい まさお)

1939年生まれ（京都）。人形劇団京芸に所属する傍ら作曲活動をはじめ、管弦楽曲、オペラ、ミュージカル、歌曲、etc. 特に、舞台音楽を中心に創作活動を続け現在に至る（500余曲、戯曲）。小山清茂氏に師事。作曲集団たにしの会（日本音楽研究グループ）、日本音楽家ユニオン、関西音楽舞踊会議会員、音楽劇団てんてこ（テラムジカTenteko）代表。  
〈主要作品〉管弦楽曲：管弦楽組曲「余興の天」、管弦楽のための舞踏組曲「赤神・黒神」等。オペラ：「湖の夕鐘（うみのせきしょう）」、「雪女」。器楽曲：マリンバのための小組曲「悪邪鬼（あまじやく）」等。ミュージカル：「淡海（おほみ）のこたろう」等。  
〈主な出版物〉こどもとつくるオペレッタ（CDブック）、じごくのそうべい、そうべいごらくへゆく、まーはーおじさんと手づくり楽器をつくらう。



### 下村 正彦 (しもむら まさひこ)

東京芸術大学音楽学部作曲科卒業。池内友次郎・矢代秋雄・島岡譲・小山清茂の各氏に師事。  
〈主要作品〉弦楽合奏のための「竹田の子守唄」/フルートとマリンバのための「光と風」/2台のマリンバのための音楽/マリンバと弦楽合奏のための音楽/4手連弾のための「神純のうた」/バレエ音楽「紀の国の詩」「赤ずきん」「散華」/歌曲集「鯉のとおり路」「花暦」/三好達治の詩による3つの歌他。  
現在、神戸山手短期大学表現芸術学科教授、神戸渡の会理事、神戸音楽家協会・兵庫県音楽活動推進会議・神戸芸術文化会議・兵庫神戸CSの会各会員。



### 中西 覚 (なかにし さとる)

現在までに管弦楽等の作品展5回のほか各種コンサートへの出品やCD・楽譜出版、委嘱作品など多数。オペラも既に6作が誕生。昨年は、県民創作オペラ「おさん茂兵衛丹波歌唄」の上演、文化庁芸術祭参加・作品展V「鳥にしあらねば」の上演などそれぞれ好評を博す。日本作曲家協議会・国際芸術連盟各会員、兵庫県音楽活動推進会議代表・作曲集団たにしの会代表・関西音楽舞踊会議委員長・全日本少年少女合唱連盟相談役その他の役職。アンサンブルピリカその他の指揮者。音楽教育功労賞（日本教育音楽協会）・兵庫県文化賞・神戸市文化賞・西宮市民文化賞・同教育功労賞・ブルーメール賞等受賞。代表作：管弦楽のための幻想曲「天の笛」・オペラ「おさん茂兵衛丹波歌唄」。



### 矢野 正文 (やの まさふみ)

大阪芸術大学特設音楽課程作曲科卒業。山縣茂太郎、譜井誠、小山清茂の各氏に師事。神戸山手女子高等学校音楽科主任、大阪教育大学非常勤講師等を歴任。神戸音楽家協会、21世紀創作歌曲の会「まほろば」、関西音楽舞踊会議各会員。兵庫県芸術文化団体「半どんの会」文化功労賞、兵庫県教育功労賞受賞。平成17年1月と19年3月に作品展を開催。現在、神戸女子短期大学非常勤講師。  
〈主要作品〉歌曲「樹と少年」「昔の礎」「夕焼け」「大鯨漁師」「再びの春」（音楽之友社）/ピアノのためのソナタ（音楽之友社）/管弦楽のための「ディヴェルティメント」/ピアノのための組曲「美術館にて」/合唱と管弦楽のための「未来への飛躍」～友いっしょに～（クラウンレコード）/ピアノと管弦楽のための「MIYABI」他多数。